ソフトウェア演習1 第2回レポート課題

J2200071 齊藤 隆斗 2024年5月21日

1 課題 3.7&3.8+ 応用課題 3.9

課題 3.7

算術式の構文解析ルーチンを参考にして正規表現の構文解析ルーチンを作成し、入力正規表現の構文木を表示するプログラムを作成せよ.正規表現の*は、算術式の符号の場合と異なり、後置演算子であることに注意する必要がある.

課題 3.8

引数 -d0, -d1, -d2 を指定することによって、入力正規表現、トークン列、構文木の 3 つをそれぞれ表示できるように main 関数を変更せよ.

応用課題 3.9

通常の grep プログラムでは、連結の '.' は省略されるのが普通である. そのような場合、上の方法で正規表現の構文解析がうまく行く確かめよ. うまくいかないとすれば、どのように方針を修正すれば良いだろうか?

2 実行結果

課題 3.7 が正常に動作することを確認

```
実行例 1: テキストの例について確認
```

\$./kadai2 'a.\|.b'
LETTER(a)

CONC

LETTER(|)

CONC

LETTER(b)

実行例 2: テキストの例について確認

```
$ ./kadai2 '(a|b*)|c'
     LETTER(a)
   VERT
         LETTER(b)
      \operatorname{AST}
VERT
   LETTER(c)
 実行例 3: 追加の例についても確認
./kadai2 '((a|b)*|\e).\0'
            LETTER(a)
         VERT
            LETTER(b)
      AST
   VERT
      EPSILON
CONC
   EMPTY
 実行例 4: 右結合であることを確認
$ ./kadai2 'abcd'
  LETTER(a)
CONC
     LETTER(b)
   CONC
         LETTER(c)
      CONC
         LETTER(d)
```

課題 3.8 が正常に動作することを確認

実行例 5: d0 オプションの動作について確認

\$./kadai2 -d0 '(a|b*)|c'
(a|b*)|c
実行例 6: d1 オプションの動作について確認

\$./kadai2 -d1 '(a|b*)|c'
LPAR
LETTER(a)

```
VERT
LETTER(b)
AST
RPAR
VERT
LETTER(c)
EOREG
 実行例 7: d2 オプションの動作について確認
 ./ kadai2 -d2 '(a|b*)|c'
    LETTER(a)
  VERT
       LETTER(b)
     AST
VERT
  LETTER(c)
 実行例 8: 予期しないオプションに対するエラー処理について確認
./kadai2 -d3 '(a|b*)|c'
invalid option
2.1 応用課題 3.9 が正常に動作することを確認
 実行例 9: テキストの例について確認
./kadai2 -d2 'ab*c'
  LETTER(a)
CONC
       LETTER(b)
     AST
  CONC
     LETTER(c)
 実行例 10: 追加の例について確認
LETTER(a)
  CONC
         EMPTY
       VERT
```

EPSILON

AST

VERT

LETTER(b)

CONC

EPSILON

- 3 プログラムの流れ
- 4 考察